

平成 25 年度 自己点検・自己評価報告書

修成建設専門学校

目 次

基準1 教育理念・目的・育成人材像等	1	23
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	2	3-18 資格取得の指導体制はあるか (建築系学科)	24
1-2 学校の特色は何か	3		
1-3 学校の将来構想を抱いているか	4		
基準2 学校運営	5		
2-4 運営方針は定められているか	6		
2-5 事業計画は定められているか	7		
2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	8		
2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	9		
2-8 意思決定システムは確立されているか	11		
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	12		
基準3 教育活動 (建築系学科)	13		
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか (建築系学科)	14		
3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか (建築系学科)	15		
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか (建築系学科)	16		
3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか (建築系学科)	17		
3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか (建築系学科)	18		
3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか (建築系学科)	19		
3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか (建築系学科)	20		
3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか (建築系学科)			
		35
		3-18 資格取得の指導体制はあるか (建築系学科)	36
基準3 教育活動 (ガーデンデザイン学科)	37		
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか (ガーデンデザイン学科)	38		
3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか (ガーデンデザイン学科)	39		
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか (ガーデンデザイン学科)	40		
3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされている			

か（ガーデンデザイン学科）	41	4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（ガーデンデザイン学科）	63
3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか（ガーデンデザイン学科）	42		
3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか（ガーデンデザイン学科） ...	43		
3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか（ガーデンデザイン学科）	44		
3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか（ガーデンデザイン学科）	47		
3-18 資格取得の指導体制はあるか（ガーデンデザイン学科）	48		
基準4 教育成果（建築系学科）	49	基準5 学生支援.....	64
4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか（建築系学科）	50	5-23 就職に関する体制は整備されているか.....	65
4-20 資格取得率の向上が図られているか（建築系学科）	51	5-24 学生相談に関する体制は整備されているか.....	66
4-21 退学率の低減が図られているか（建築系学科）	52	5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか.....	67
4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（建築系学科）	53	5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	68
基準4 教育成果（土木系学科）	49	5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか	69
4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか（土木系学科）	55	5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか.....	70
4-20 資格取得率の向上が図られているか（土木系学科）	56	5-29 保護者と適切に連携しているか.....	71
4-21 退学率の低減が図られているか（土木系学科）	57	5-30 卒業生への支援体制はあるか.....	72
4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（土木系学科）	58		
基準4 教育成果（ガーデンデザイン学科）	59	基準6 教育環境.....	73
4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか（ガーデンデザイン学科）	60	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか.....	74
4-20 資格取得率の向上が図られているか（ガーデンデザイン学科）	61	6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか.....	75
4-21 退学率の低減が図られているか（ガーデンデザイン学科）	62	6-33 防災に対する体制は整備されているか.....	76
基準7 学生の募集と受け入れ	78		
7-34 学生募集活動は、適正に行われているか	79		
7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか.....	80		
7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	81		
7-37 学納金は妥当なものとなっているか.....	82		
基準8 財務.....	83		
8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか.....	84		
8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか.....	85		
8-40 財務について会計監査が適正に行われているか	86		
8-41 貢献情報公開の体制整備はできているか	87		

基準9 法令等の遵守.....88

- 9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか.....89
9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか.....90
9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか.....91

9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか.....92

基準10 社会貢献.....93

- 10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか.....94
10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか.....96

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>建学の精神「国土建設に奉仕する精神」は本校の抛って立つ不易の根本理念であるが、今日の時代状況を踏まえ、その精神の意味するところを解釈し直す作業が必要である。</p> <p>教育の目的や目標、方針、育成人材像等は明示しているが、やや教育現場の実利的内容に偏り、本校をどのような学校にしていくのかという将来的なビジョンや、教育を継続的・永続的に推進していくための経営的視点が欠けていたきらいがある。そこで現在、6年先を見据えた中期ビジョンとして組織、教育、職場のそれぞれの分野におけるビジョンとして各委員会から草案が示された。</p> <p>学校の特色は、創立以来100年を超える古い歴史と伝統を有し、また学科も一貫して建築系・土木系・造園系に特化して、関連資格の高い取得率や就職率を誇ってきたところにあるが、一方で建設業界の景気に影響されやすく、最近は学生の確保に苦慮している。</p> <p>また、他の専門学校に先駆けて免震校舎を建築し、学生の安全性を確保していることは、学校の特色として特筆すべきことである。</p> <p>学校の将来構想は急務である。教職活動に従事する教職員に“夢”が抱け、意欲とやり甲斐の感じられるビジョンを示すことが必要である。</p>	<p>創立103年目という古い歴史と伝統は、総体として安定感・安心感を与えるものであるが、その一方で旧弊をどう打破していくかが課題である。そのため、34,500人を超える卒業生から広く意見を求めるとともに、外部から専門技術者を招聘し、企業の求める人材像や教育体系全般の見直しを進める必要がある。その一環として教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会などを立ち上げて、定期的に開催し意見をいただく手段とした。</p> <p>校舎の中心棟を免震校舎にしたことは誇るべきことではあるが、それ以外の校舎は、耐震性には点検し、補強すべきところは補強工事を完了させてるので問題ないが、耐久性の点で建替えや大規模修繕を視野に入れる時期が近づいているので、そのための資金計画を立案しなければならない。</p>

最終更新日付 2014年5月31日 記載責任者 三枝 省三

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
1-1-1 学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	建学の精神「国土建設に奉仕する精神」を根本理念とし、そのための教育目的・目標・方針等について明確に定めている。	目的や育成人材像をわかりやすくするために、本校の教育ミッション（学生と約束する5つの“養う”）を発表している。	さらに理念・目的・育成人材像等を明確にするため、「中期ビジョン」の作成に取り組んでいる。	便覧（学則編） 学校案内 HP（教育ミッション）
1-1-2 理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	教育の中で実現するため、たえずカリキュラムおよびシラバスを刷新している。	目的に沿うよう平成24年度のカリキュラムを大改正し、また社会人としてのマナー教育にも力を注いでいる。	「中期ビジョン」を実現するために具体的な実施計画の作成に取り組んでいる。	便覧（学則編）
1-1-3 理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	建学の精神は不易の根本理念としているが、その他は時代の変化に対応して、適宜見直していく。	「中期ビジョン」で見直しを進めている。		
1-1-4 理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	教職員に周知を図り、学外にも広く公表している。		教職員みずからの理解と周知を徹底するため、「中期ビジョン」の作成に教職員全員が取り組んでいる。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育のガラパゴス化を避けるため、企業現場の専門技術者を招いて学校と一緒にカタリキュラム・シラバスの見直しを進める一方で、教育の理念・目的・育成人材像を根底的に再構築するため、「中期ビジョン」の策定を進めているところである。	建学の精神の示す「奉仕の精神」を人材教育の理念とし、専門技術を通して社会に貢献することを使命と考える人材の育成を目的としている。 100年以上続いている学校であるため、多くの卒業生から企業の求める人材や、望ましい教科の情報を得ている。

1-2 学校の特色は何か

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
1-2-5 学校の特色として挙げられるものがあるか	<ul style="list-style-type: none"> ・免震校舎 ・建設系学科に特化 ・高い資格取得率と就職率 ・創立 103 年の歴史と伝統 	参照資料による	設置学科は建設系のみであるため、学生数の減少に苦慮している。今後は新設学科を含め、学生の関心をどう掘り起こしていくかが課題である。	学校案内

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
設置学科は建設系のみであるため、建設業界の景気の動向に左右されやすいところがある。それを学校の特色（ブランド）の構築でどう克服していくかが課題である。各種資格取得率や就職率をさらに高めることはもちろん、建設系のみでなく、時代にあった新しい工業系学科の設置も視野に入れて検討していきたい。	他校に先駆けて免震校舎を建築したことは、建設系専門学校として誇るべき実績である。ただ、他の校舎は耐用年数が迫りつつあるため、建替または大規模修繕を計画しなければならないという問題がある。

最終更新日付	2014 年 5 月 31 日	記載責任者	三枝 省三
--------	-----------------	-------	-------

1-3 学校の将来構想を抱いているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
1-3-6 学校の将来構想を描き、3~5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	中期的構想は不可欠であると考えている。	平成25年度中に6年先を見据えた中期ビジョンを作成すべく、現在取り組んでいる。	先の見通しがつかない時代状況の中で、“夢”的部分とそれを実現する現実過程（実施計画）をどう整合させるかが課題である。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中期ビジョンの中では、経営理念・方針はもちろん、ビジョン全体を組織（学校運営）・教育・職場の各フェーズに分け、さらに詳しく作成していく。各フェーズの作成には教職員全員が参画し、ビジョンの共有を深めていく。	100年の歴史と伝統をどう引き継ぎ、どう革新していくかが課題である。歴史が古いということは安心感を与えるが、一方、古いがゆえに旧弊にとらわれ、時代を失うおそれがある。中期ビジョンでは、本校の新しい伝統をつくることを目指している。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	三枝 省三
--------	------------	-------	-------

基準2 学校運営

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の運営方針の明確化は、教育活動のみならず学校経営にとっても中心的な命題である。そのため、平成23年度に管理運営規程ならびに就業規則・給与規程の大改正を行い、現在の状況に適合する内容に整備して教職員全員に周知を図ったが、今年度も必要に応じて細部の見直しを行った。</p> <p>事業計画は毎年度策定し、理事会・評議員会の承認を受けて円滑に執行している。</p> <p>運営組織や意思決定機能は以前から明確に規定されており、効率的に運用されているが、教職員一人ひとりが自由に意見・提案を表明し、それが運営に反映されるように設置した「教職員協議会」が機能する運営を図った。</p> <p>また能力評価と業績評価による人事考課制度を設け、賃金に反映する仕組みをつくった。これは、これまで年齢給のみであった給与体系を、年齢的因素は残しつつも能力と業績の評価を主体にすることにより、若年者であっても業績如何により賃金に反映される道を拓いた。職務遂行の励みとするものである。</p> <p>さらに情報の共有化を図るため、情報システムを構築した。全教職員のメール網を完備し、また学生の情報をデータベース化することにより、業務の効率化や学生へのきめ細かな指導が可能となった。</p> <p>今年度の特筆すべき事業に、8月末に文部科学省から平成26年度から職業実践専門課程の新設が発表され、本校も新しい課程の認定を目指して準備に入った。必要な「教育課程編成委員会」、「学校関係者評価委員会」等を立ち上げも行った。</p> <p>その結果3月末に公示があり、建築系6学科、土木系2学科とガーデンデザイン学科の9学科が認定を受けた。</p>	<p>運営上、注意すべき点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none">人事考課にあたっては、公平・公正はもとより、予断のない厳正な評価の執行がこの制度を支える要諦である。学生の個人情報の漏洩には細心の注意が必要である。そのため個人情報保護規則を設け、またアクセスできる人間を限定している。当初は、カリキュラム変更を予定していたが、職業実践専門課程の認定を優先した。

2-4 運営方針は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
2-4-1 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか	学校の運営方針は教育活動にとって中心的な命題である。変わらないものと変えるべきものとを区別し、たえず見直しをおこなう必要がある。	平成 25 年度にも管理運営規程の改正をおこなった。	中期ビジョンの中で、学校運営方針の肉づけをおこなうこととしている。	管理運営規程便覧（学則編）
2-4-2 学校運営方針は教職員に明示され、伝わっているか	原則として、情報は教職員に開示する方針としている。	管理運営規程の改正後、教職員全員に説明をおこなった。		管理運営規程
2-4-3 学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	現在の学校運営方針にそぐわなくなった諸規定を改廃し、新たに必要となった規定を追加する方針とした。	平成 25 年度にも管理運営規程の中の諸規定を改正した。 新たに追加した規定は「学校関係者評価委員会」「教育課程編成委員会」である。		管理運営規程

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
運営方針は学校および教職員にとって枢要な課題である。そのため、絶えずチェックを行い、必要に応じて管理運営規程と諸規定の改正をおこなった。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	三枝 省三
--------	------------	-------	-------

2-5 事業計画は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
2-5-4 学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	毎年、会計年度ごとに定めることとしている。	事業計画は毎年度、理事会・評議員会の承認を受けている。		平成 25 年度事業計画書 (理事会・評議員会資料)
2-5-5 学校は事業計画に沿って運営されているか	運営している。	学生募集の強化と、教育内容の向上を主要な事業方針として運営している。		平成 25 年度事業計画書 (理事会・評議員会資料)

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事業計画は、円滑に運営されている。	

最終更新日付	2014 年 5 月 31 日	記載責任者	三枝 省三
--------	-----------------	-------	-------

2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
2-6-6 運営組織図はあるか	ある。	平成 25 年度に一部を改正した。		管理運営規程
2-6-7 運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	なっている。	官産や保護者や卒業生からなる学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会を新たに設けた。	学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会の成熟した運営が今後の課題である。	管理運営規程
2-6-8 組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	明確にしている。	管理運営規程に細かく明示している。		管理運営規程

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校運営におけるガバナンスの強化と、逆に教職員一人ひとりが自由に意見を表明し、それを運営面に反映していく手段として設けた「教職員協議会」の充実を図った</p> <p>また外部からの意見をいただく手段として「学校関係者評価委員会」と「教育課程編成委員会」を設置した。</p>	<p>事務局の職務が校務の事務処理に限定されていた機能を、むしろ学校運営に主導的に関わる機能へと組織改編した。ただし、それには事務局職員のプロフェッショナルな育成がかなめとなる。</p> <p>外部委員から頂いた意見を速やかに学校運営に反映できる組織に改編していく。</p>

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
2-7-9 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	最低限は確保し育成を行っている。	人材の確保は、予算内でそのつど判断している。 教員の育成は外部研修を奨励している。		個人研修費規定 (管理運営規程) 資格取得助成金規定 (就業規則)
2-7-10 人事考課制度は整備されているか	整備されている。	能力評価と業績評価の両面から評価することとしている。	評価の公平性・公正性をいかに担保するかが課題である。	職員人事考課表 教員人事考課表
2-7-11 昇進・昇格制度は整備されているか	現状は整備していない。 制度として整備したいが、人数が少ないため、現状そこまでの必要性がないと考えている。		いずれ人事考課制度にもとづいて、整備したいと考えている。	
2-7-12 賃金制度は整備されているか	23年度に整備された。	職務遂行へのインセンティブとなる賃金制度の必要性から年齢給のみの給与体系であったものを、基本年俸と職務年俸とで構成する年俸制に改正した。	人事考課にもとづいて決定しているが、評価の公平性・公正性をいかに担保するかが課題である。	給与規程

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
2-7-13 採用制度は整備されているか	おおむね整備している。	就業規則および非常勤講師の採用規定に従って採用している。		就業規則 非常勤講師の採用規定 (管理運営規程)
2-7-14 教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	把握している。	変動があれば、監督官庁の大坂府に届出ている。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
従来は給与が年齢給一本だったため、業績が優れても若年者であれば給与に反映されなかった。給与体系を、年齢給の要素は残しつつ（基本年俸）、人事考課制度（能力評価+業績評価）にもとづいて査定する職務年俸を加える規定に改正を定着した。これにより、年齢に関係なく職務遂行へのインセンティブを与えることができる。	人事考課制度の成否は、考課の厳正な執行による制度への信頼性の確保にある。教員の場合は、これに学生による授業評価を加え、総合的に判断することとしている。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	三枝 省三
--------	------------	-------	-------

2-8 意思決定システムは確立されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
2-8-15 意思決定システムは確立されているか	確立している。	全教職員が自由に意思を表明できる場として、新たに教職員協議会を設置した。		管理運営規程
2-8-16 意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか	制度化している。	職員会、教職員連絡会、教員連絡会、科長・事務局長会議、教職員協議会等を制度化し、必要に応じて開催している。		管理運営規程
2-8-17 意思決定の階層・権限等は明確か	明確である。	各種会議の規定に、構成員、目的、権限等を明記している。		管理運営規程

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
意思決定システムは制度化し、円滑に運用している。特に科長・事務局長会議は毎週開催し、重要な事項を決定すると同時に意思の疎通を図っている。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	三枝 省三
--------	------------	-------	-------

2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
2-9-18 業務効率化を図る情報システム化がなされているか	情報の共有化は業務の効率化にとって不可欠の要素であると考えている。	全教職員のメール網、情報交換用フォルダ、学生のデータベース等を構築した。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
情報の共有化を業務改善の第一歩とし、必要な情報や会議録等の配信、教職員からの意見の集約などにメール網を使用することにより、業務の効率化は格段に向上した。また、学生の情報をデータベース化することにより、相談や就職等にきめの細かな指導が可能になっている。	個人情報の漏洩に細心の注意が必要である。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	三枝 省三
--------	------------	-------	-------

基準3 教育活動（建築系学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>概ね良好である。</p> <ul style="list-style-type: none">建築系学科の教育目標、育成人材については、学生個々の資質・個性・長所・才能を見極め、より一層業界の人材ニーズに対応できるよう努めている。業界の人材ニーズは多種多様であり、学生が求める職種も様々である。その時々のニーズレベルに照らし常に適切な科目配置を検討する必要あり。専門教育のほか、学生の生活態度、学力低下、道徳教育等に取り組む必要性を感じるカリキュラムは体系的に編成されている。建築系学科の各科目は、カリキュラムの中で適正に位置づけされている。授業評価の実施・評価体制はある。評価に対する真摯な受けとめと授業への反映努力が一層求められる。 評価・改善方法は、各教員にまかされているが、全体として評価・改善システムを確立する必要がある。育成目標に向け授業を行なうことができる要件を備えた教員確保については、教員各自が責任をもって建設技術の取得の為の研修を行なっているが、その為の費用の積極的な支援がほしい。 建築系学科の非常勤講師は育成目標に向け授業をおこなえる要件を備えている。特にその専門性においては実践教育（現場実習・演習）で顕著である。成績評価・単位認定の基準は明確に設定されていて、特に問題はない。資格取得の指導体制は確立している。	<p>平成25年度に新設した住環境リノベーション学科は、定員を確保でき上々のスタートとなった。</p> <ul style="list-style-type: none">学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会での意見反映。教員同士の他者評価や職員による教員評価の実施。

最終更新日付 2014年5月31日 記載責任者 増田 和浩

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（建築系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-10-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	各学科の教育目標、育成人材像は、学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けるよう常に努力する。	卒業生の情報や業界で活躍する非常勤講師の協力を得て、業界が求める人材像、専門知識・技術を幅広く把握し反映させている。	業界の多種多様な人材ニーズ(職種)に向けての対応ができるようにする。	便覧（学則編）、シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生個々の資質・個性・長所・才能を見極め、より一層業界の人材ニーズに対応できるよう努めている。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	増田 和浩
--------	------------	-------	-------

3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか（建築系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-11-2 各学科の教育目標、育成人材像を達成する知識、技術、人間性等は、業界が求めるレベルに適合しているか、また、レベルに到達することが可能な修業年限となっているか	業界のニーズに合わせ定めるように努力を行う。また、国家資格を取得可能とするレベルを定め、目標達成に努める。	業界のニーズや国家資格には設計、施工、施工管理、維持管理等幅広い知識が必要となるが、授業科目は適切に配置されている。	さらなる知識・技術の習得と共に、良識ある建設技術者の育成を必要とする。	便覧（学則編）、シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
業界の人材ニーズは多種多様であり、学生が求める職種も様々である。その時々のニーズレベルに照らし常に適切な科目配置を検討する必要があり、専門教育のほか、学生の生活態度、学力低下、道徳教育等に取り組む必要性を感じる。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	増田 和浩
--------	------------	-------	-------

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（建築系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-12-3 学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	時代に合ったカリキュラムに変更を試み、常に業界が求める建設技術者を目指すに十分な内容でかつ体系的に編成・更新する。	常に時代に合った内容になるように取り組んでいる。一部改正の予定であったが、平成25年度は職上実践専門課程への移行を優先した。	カリキュラム、講義要綱等見れば国家資格内容が示す技能や知識要件がバランスよく網羅されていることが判る。	学校要覧、便覧（学則編）、シラバス
3-12-4 カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	カリキュラムの内容については、在校生・卒業生の評価、業界関係者の具体的意見を反映させるよう努力する。	平成25年度から教育課程編成委員会を発足し、外部委員から意見を頂いている。講義と実習・演習がバランスを特に注意している。	今後継続的に教育課程編成委員会の外部委員からの意見をいただくとともに実践していく手法の開発。	学校要覧、便覧（学則編）、シラバス
3-12-5 カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	カリキュラムを編成する体制は、教員の意見を反映し、明確にするよう努力する。	各教員の意見を反映しつつ科長が編成し副校長・校長の決済、職員会議の審議を得て、理事会の承認を得る。	現時点では課題を感じない。	管理運営規程
3-12-6 カリキュラムを定期的に見直しているか	カリキュラムは業界ニーズの変化に伴い定期的に見直し、必要に応じて点検を行う。	平成22年度、平成24年度に大幅なカリキュラムの見直しを行った。本年度は見送ったが、次年度は、改訂を行う予定である。	見直し頻度。企業の意見や在学生の意見を反映する。	学校要覧、便覧（学則編）、シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
文部科学省から専門学校に対し「職業実践専門課程」を新たに新設することが発表され、その課程の認定を受けるためには、産学における実践教育が要求されるため、その認定を受けるためカリキュラム改訂のため検討を行った。	平成25年度より、教育課程編成委員会を発足させ、カリキュラムの内容等について検討を行っている。

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか（建築系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-13-7 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	専門教育科目（必修科目・選択科目）、共通基礎専門科目（選択科目）に区分し、適正な位置付けとする。	専門教育科目（必修・選択）、共通基礎専門科目（選択）に区分し、総時間数、単位数、受講学年等を示し適正な位置付けをしている。	必修科目と選択科目のバランス。	便覧（学則編）、シラバス
3-13-8 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	各科目の指導内容、方法、単位、教育目標を示した充実したシラバスを作成する。	単位、コマ数、授業担当者、教育目標、成績評価の方法等示したシラバスが作成されている。	年度終了時に、教員間で協議して、シラバスの見直しを行う。	便覧（学則編）、シラバス
3-13-9 各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	全ての科目ごとに一コマの授業について、その授業シラバスを作成する。	シラバスが十分なかたちで作成されている	もう少し詳しいコマシラバスの作成が望ましい。	シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各科目はカリキュラムの中で適正な位置づけが成されている。	今後は、さらに時代に合った内容を重視した詳しいコマシラバスを作成することが望ましい。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	増田 和浩
--------	------------	-------	-------

3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか（建築系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-14-10 キャリア教育が行われているか	キャリア教育は必須である。ワークショップⅠ、Ⅱの科目を設けて職業観や、社会人として必要な心構えなどを養う。	産・官・民との連携による学外実習・演習を通じて実施している。 業界人・卒業生による講義を実施している。	社会人基礎力や表現力の取得は、本人に自覚が第一であると思われるが、経済面での問題はあるが、その動機付けの機会をできるだけ多く設けたい。	便覧（学則編）
3-14-11 キャリア教育の実効性は検証されているか	主に、就職活動や就職後の企業からの学外評価をもって検証している。	学外実習や演習においては連携機関の講評を得たり、企業や卒業生へのアンケートを実施するなどの対策をとっている。	積極的な企業実習を取り入れて実効性の検証につなげていく。	アンケート ・企業むけ ・卒業者向け

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
産・官・民との連携実習や演習は、職業実践教育はもとより社会人教育の場としても有意義であり、これの積み重ねによる効果は絶大である。さらに創意工夫を重ねたい。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	増田 和浩
--------	------------	-------	-------

3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか（建築系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-15-12 学生による授業評価を実施しているか	授業アンケート調査（全科目）を実施、調査結果をクラス別に集約し、データ保存する。	平成14年度より授業アンケート調査（全科目）を実施している。調査結果はクラス別に集約、データ保存されている。全教員へ結果を公表し、授業法改善の資料として活用している。	教員個々が評価を真摯に受け止め、授業法の目標を設定して改善に努めている。	授業アンケート調査結果表
3-15-13 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否について学科や学校として把握・評価する体制をつくる。	同一科目を複数教員が担当する場合は、統一性等について話し合いを行っている。お互いの授業を見学している。また科目担当者ごとの意見交換は行なっている。教員間や職員からの評価を取り入れた。	意見交換を体制として確立する必要がある。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
授業評価の実施・評価体制はある。評価に対する真摯な受けとめと授業への反映努力が一層求められる。 評価・改善方法は、各教員にまかされているが、全体として評価・改善システムを確立する必要がある。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	増田 和浩
--------	------------	-------	-------

3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか（建築系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-16-14 学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	建設技術者の育成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保する必要がある。	教員の履歴や在校生・卒業生の教員評価・授業評価等を行っている。	教員の高年齢化に伴う対応が必要となる。	就業規則
3-16-15 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	教員は、経験豊富で専門性の鮮度を常に把握し、業界レベルに十分対応できる人材の確保が必要である。	専任教員、非常勤講師の履歴書及び学生評価並びに求人企業のアンケートや意見により検討している。	常に教員は、学生の休暇を利用して、企業研修が必要である。	
3-16-16 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	学科長は教員の専門性については把握して、適正に評価する。	日頃の各教員との会話や実習・演習授業現場の観察、授業見学や学生による授業評価等により適宣把握し評価できている。	評価の実施状況資料の作成等。	
3-16-17 教員の専門性向上させる研修を行っているか	専門性など必要に応じて研修を行わせる必要がある。	大阪府や大專各などの研修を、必要に応じて受けさせていく。	教員は、学生の休暇などを利用して積極的に研修すべきである。	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-16-18 教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか	学科長は教員の教授力については適宜把握し、評価するよう努力する。	調査結果はクラス別に集約、データ保存されている。	評価実施状況資料の作成。	
3-16-19 教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	定期的に行う科会等で教授力の向上対策について話し合いがなされる必要がある。	建築科として、研修は行っていない。各教員の自主研修による。	教授力向上に向けた研修を行なう必要がある。 教員間の授業見学を行い、意見交換会を計画する。	
3-16-20 教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか	教育面については教員間で適切に協業するよう努力する必要がある。	教育面において業務の質・効率の向上のため情報交換はなされている。	他の学科との情報交換による活性化が必要となる。 各授業担当者間の協業体制を示す書類の作成が必要となる。	
3-16-21 非常勤講師間で適切に協業しているか	非常勤講師間で連絡を取り合い協業するよう誘導する。	協業しているという書類はない。	非常勤講師間における協業体制を示す書類の作成が必要である。	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-16-22 非常勤講師の採用基準は明確か	採用規定・採用基準を明確にする必要がある。	管理運営規程により行っている。	特にない。	管理運営規程

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教員各自が責任をもって建設技術の取得の為の研修を行なっているが、その為の費用の積極的な支援がほしい。</p> <p>学科の非常勤講師は育成目標に向け授業をおこなえる要件を備えている。特にその専門性においては実践教育（現場実習・演習）で顕著である。</p>	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	増田 和浩
--------	------------	-------	-------

3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか（建築系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-17-23 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定の基準は明確に行う。	便覧（学則編）により、成績評価・単位認定の基準は明確に行っている。	特にない	便覧（学則編）、シラバス
3-17-24 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	各大学・専門学校等と単位互換ができるよう明確に基準を設ける必要がある。	単位互換により大学3年次に編入できる制度がある。 又大学卒業生などが本校へ入学したときの単位互換制度がある。	特にない	便覧（学則編）、シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価・単位認定の基準は明確に設定されていて、特に問題はない。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	増田 和浩
--------	------------	-------	-------

3-18 資格取得の指導体制はあるか（建築系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-18-25 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	学生の目標とする資格はカリキュラムの上で明確にする必要がある。	目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められている。	現時点では課題を感じないが、常に業界のニーズに対応できるように情報収集には努める。	便覧（学則編）、学校案内、シラバス
3-18-26 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	目標とする資格の取得をサポートできるよう教育内容を熟慮する。	目標とする資格の取得をサポートできる教育指導体制を取っている。	学科において取得目標と定める資格以外の資格取得に伴う学生対応を考慮する必要がある。	シラバス、時間割

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
資格取得の指導体制は確立している。	平成26年度から資格取得奨励金制度を発足させるように準備した。目標とする資格を明確にして受験率を高めるとともに合格率をアップさせる。また合格者に対し奨励金を支給する制度である。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	増田 和浩
--------	------------	-------	-------

基準3 教育活動（土木系学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>平成25年度末に文部科学省より「職業実践専門課程」の認定を受けるために、これまでのカリキュラムについて再検討を行った。認定後、実践教育をどの程度導入し、科目内容を充実し、平成27年4月生より実施予定のカリキュラム変更についての準備を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none">・土木系学科の教育目標、育成人材については、学生個々の資質・個性・長所・才能を見極め、より一層業界の人材ニーズに対応できるよう努めている。・業界の人材ニーズは多種多様であり、学生が求める職種も様々である。その時々のニーズレベルに照らし常に適切な科目配置を検討する必要あり。専門教育のほか、学生の生活態度、学力低下、道徳教育等に取り組む必要性を感じる・土木工学科のカリキュラムは体系的に編成されているので、産学実践教育を導入するため、各科目の内容を再検討した。・建設エンジニア学科のカリキュラムには、情報化施工を見据えた内容を充実し、また実習関係を充実した内容に変更予定である。・教員同士の他者評価や職員による教員評価の実施。・

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	堤下 隆司
--------	------------	-------	-------

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（土木系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-10-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	学科の教育目標、育成人材像は、学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けるよう常に努力する。	卒業生の情報や業界で活躍する非常勤講師の協力を得て、業界が求める人材像、専門知識・技術を幅広く把握し反映させている。また、教育課程編成委員会を組織し、委員会よりカリキュラム等について検討している。	業界の多種多様な人材ニーズ(職種)に向けての対応。	便覧（学則編）、シラバス 教育課程編成委員会議事録

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生個々の資質・個性・長所・才能を見極め、より一層業界の人材ニーズに対応できるよう努めている。	平成25年度より、学内に教育課程編成委員会を組織し、カリキュラム等に関する検討を行っている。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	堤下 隆司
--------	------------	-------	-------

3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか（土木系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-11-2 各学科の教育目標、育成人材像を達成する知識、技術、人間性等は、業界が求めるレベルに到達することが可能な修業年限となっているか	明確に定められている。国家資格を取得可能とするレベルを定め、目標達成に努める。	資格獲得には設計、施工、施工管理、維持管理等幅広い知識が必要となるが、授業科目は適切に配置されている。	さらなる知識・技術の習得と共に、良識ある建設技術者の育成。	便覧（学則編）、シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
建設業界の特にゼネコンと言われる総合建設業では、勉学も大切であるがコミュニケーション能力を重視する傾向がある。また、留学生の就職先では日本語での会話やコミュニケーション能力を最重要とされるため、本科においても専門教育のほか、コミュニケーション能力を高めるための取り組みが必要である。	本校は2年課程の専門学校である。また、入学者を選抜していないため、学生の能力差は格段にある。故に人材育成と技術指導を満足するために色々な取り組むを行っている。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	堤下 隆司
--------	------------	-------	-------

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（土木系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-12-3 学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	土木技術者を目指すに十分な内容でかつ体系的カリキュラムの編成を行う。	時代に合ったカリキュラムを目指し、カリキュラム、講義要綱等見れば国家資格内容が示す技能や知識要件がバランスよく網羅されていることが判る。	現時点では課題を感じない。	便覧（学則編）、シラバス
3-12-4 カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	業界が求めている人材像を的確に把握し、カリキュラムに反映させる。	平成25年度から教育課程編成委員会を発足し、外部委員から意見を頂いている。	現時点では課題を感じない。	便覧（学則編）、シラバス 教育課程編成委員会規定
3-12-5 カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	業界が求めている人材像を的確に把握し、カリキュラムに反映させる。	各教員の意見を反映しつつ科長が編成し副校長・校長の決済、職員会議の審議を得て、理事会の承認を得る。	現時点では課題を感じない。	管理運営規程
3-12-6 カリキュラムを定期的に見直しているか	カリキュラムの内容が業界が求めている人材育成と合致しているか、定期的に検討を行う。	教育課程編成委員会等の意見を基に、カリキュラムを定期的に検討している。	見直し頻度の適正化。在学生の意見反映。	便覧（学則編）、シラバス 教育課程編成委員会規定

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
文部科学省から専門学校に対し「職業実践専門課程」を新たに新設することが発表され、その課程の認定を受けるためには、産学における実践教育が要求されるため、その認定を受けるためカリキュラム改訂のため検討を行った。	平成25年度より、教育課程編成委員会を発足させ、カリキュラムの内容等について検討を行っている。

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか（土木系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-13-7 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	専門教育科目（必修科目・選択科目）、共通基礎専門科目（選択科目）に区分し、適正な履修ができるようにする。	専門教育科目（必修科目・選択科目）、共通基礎専門科目（選択科目）に区分し、更に2級建築士受験資格を得るための取得科目を区分して表示。また、総時間数、単位数、並びに各学年での取得単位数を表示している。	必修科目と選択科目のバランスと時間数。	便覧（学則編）、シラバス
3-13-8 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	単位、コマ数、授業担当者、教育目標、成績評価の方法等を示したシラバスを作成する。	科目ごとにシラバスを作成し、学生等に対し公表している。	当年度終了時に、教員間で協議して、シラバスの見直しを行なう。	便覧（学則編）、シラバス
3-13-9 各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	1科目半期 15 コマ実施できる行事予定表を作成し、科目担当が 15 コマで完結する授業計画を立てシラバスに反映させる。	科目ごとに 15 週間分の講義内容を示したシラバスを作成している。	もう少し詳しいコマシラバスの作成が望ましい。	シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各科目はカリキュラムの中で適正な位置づけが成されている。 平成 27 年度 4 月生から実施予定でカリキュラム変更作業を行っている。	

3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか（土木系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-14-10 キャリア教育が行われているか	「職業実践専門課程」の認定後も継続したキャリア教育が必要であるため、内容、期間等を検討し、充実した内容となるように行う。	富士教育訓練センターでの施工実習、ワークショップⅠ・Ⅱ、企業実習にて企業人による講義や演習、更に実習科目を充実するように計画している。	特になし	便覧（学則編） 施工実習実施要領
3-14-11 キャリア教育の実効性は検証されているか	本校での教育内容が実社会にて生かされているか、また不足している内容を把握する。	教育課程編成委員会でのヒヤリングや就職先企業へのアンケートを実施している。	積極的な企業実習を取り入れて実効性の検証につなげていく。	教育課程編成委員会議事録 アンケート ・企業向け ・卒業者向け

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
文部科学省より「職業実践専門課程」の認定を受けるため、産・官・民との連携実習や演習は必須である。職業実践教育はもとより社会人教育の場としても有意義であり、この積み重ねによる効果は絶大である。さらに創意工夫を重ねたい。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	堤下 隆司
--------	------------	-------	-------

3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか（土木系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-15-12 学生による授業評価を実施しているか	授業は一方通行になりがちであるため、全科目を対象に前期・後期に学生によるアンケートを実施し、データ保存されている。全教員へ結果を公表し、授業法改善の資料として活用している。	全科目を対象に前期・後期に学生によるアンケートを実施し、調査結果はクラス別に集約、データ保存されている。全教員へ結果を公表し、授業法改善の資料として活用している。	評価アンケートの内容と効率の良いアンケート実施方法について検討中。	授業アンケート調査結果表
3-15-13 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	授業評価アンケート調査結果をもとに前後期専任・非常勤講師連絡会にて全体に対し、また、学科ごとにも内容の検討を行っている。	同一科目を複数教員が担当する場合は、統一性等について話し合いを行っている。 アンケート結果をもとに次期授業計画書の作成を行っている。	専任教員が受け持つ科目コマ数が多く、他の教員が行っている授業参観が殆どできないので、その対策を検討中である。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
授業評価の実施・評価体制はある。評価に対する真摯な受けとめと授業への反映努力が一層求められる。 評価・改善方法は、各教員に一任されているが、評価・改善システムを確立する必要がある。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	堤下 隆司
--------	------------	-------	-------

3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか（土木系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-16-14 学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件(専門性・人間性・教授力・必要資格等)を備えた教員を確保しているか	建設技術者の育成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保する。 また、業界で必要な国家資格取得者である教員を確保する。	前・後期末に各科目担当ごとに授業評価アンケートを実施している。また、自己評価ならびに他者評価を実施している。	授業評価アンケートの方法等について、	授業アンケート調査結果表 就業規則 管理運営規定
3-16-15 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	教員は、経験豊富で専門性の鮮度を常に把握し、業界レベルに十分対応する必要がある。	専任教員、非常勤講師の履歴書及び学生評価並びに求人企業の多さ等から判断している。	教員は、学生の休暇を利用して、企業研修が必要である。	学外への投稿論文等
3-16-16 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	学科長が教員の専門性については把握して、評価する。	常日頃の教員間の会話や実習・演習授業現場の観察、学生による授業評価等により適宜把握し評価している。	評価の実施状況資料の作成等。	自己点検評価
3-16-17 教員の専門性向上させる研修を行っているか	原則として各教員の自主的判断にゆだねている。	資格取得助成金制度がある。	1 教員に対する負担が大きく、自己のスキルアップに必要な時間確保が難しい状況である。	管理運営規定

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-16-18 教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか	教育の質を向上させるためには、教員の教授力が重要である。そのため教員の教授力を把握し、適切な指導が要求される。	学科長は、学生による授業評価アンケート調査結果等により教員の教授力については適宣把握し、評価している。	学生によるアンケート調査結果だけでは、評価に偏りがあるため、更なる評価方法を検討する必要がある。	授業評価アンケート集計表
3-16-19 教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	建設における技術の進歩は目覚しく、日々自己研修によりその技術力を高める必要がある。	前・後期のスタート前に専任・非常勤講師連絡会を実施し、意見交換を行っている。	教授力向上に向けた研修を行なう必要がある。	
3-16-20 教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか	実習科目において、受講学生数に応じて、教育面については教員間で適切に協業する。	実習科目において、受講学生数に応じて、協業しながら教授を行っている。	特になし	
3-16-21 非常勤講師間で適切に協業しているか	非常勤講師間でも連絡を取り合い協業する。	土木において非常勤教員は、単独開講の座学を担当しているので、協業は難しい。	特になし	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-16-22 非常勤講師の採用基準は明確か	担当教科にふさわしい人材を採用する。	採用規定・採用基準を明確にし、採用を行っている。	特になし。	管理運営規程

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教員各自が責任をもって建設技術取得の為に研修を行なっているが、研修費用の積極的な支援が必要である。</p> <p>学科の非常勤講師は育成目標に向け授業をおこなえる要件を備えている。特にその専門性において実践教育（現場実習・演習）は顕著である。</p>	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	堤下 隆司
--------	------------	-------	-------

3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか（土木系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-17-23 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定の基準を明確し、表示する。	便覧（学則編）において成績評価・単位認定の基準は明確になっている。	特になし	便覧（学則編）、シラバス
3-17-24 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	大学・専門学校等との単位互換ができるよう時間数、単位数の基準を明確に表示する。	単位互換により大学3年次に編入できる制度がある。 又大学卒業生や専門学校生が本校へ入学したときの単位互換制度がある。	特になし	便覧（学則編）、シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価・単位認定の基準は明確に設定されていて、特に問題はない。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	堤下 隆司
--------	------------	-------	-------

3-18 資格取得の指導体制はあるか（土木系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-18-25 目標とする資格はカリキュラム上で明確に定められているか	本校では、在学中の資格取得を最優先して取り組んでいる。 目標とする資格はカリキュラム上で明確にし、受講者全員が取得出来るようにする。	目標とする資格はカリキュラム上で明確に定め、その資格取得のための科目、または時間外の講習会を実施している。	特に国家試験は全員合格させるために、学生のモチベーションを高める方法を模索する必要がある。	便覧（学則編）、学校案内、シラバス
3-18-26 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	目標とする資格取得のためサポートできる教育指導体制を整備する。	演習・実習の授業を通して目標とする資格の取得をサポートできる教育指導体制をとっている。また、時間外での講習会も実施している。	学科において取得目標と定める資格以外の資格取得に伴う学生対応が必要である。	シラバス、時間割

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
資格取得の指導体制は確立しているが、国家試験の合格率をアップするために努力が必要である。	平成26年度から資格取得奨励金制度を発足させるように準備した。目標とする資格を明確にして受験率を高めるとともに合格率をアップさせる。また合格者に対し奨励金を支給する制度である。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	堤下 隆司
--------	------------	-------	-------

基準3 教育活動（ガーデンデザイン学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none">概ね良好である。学科の教育目標、育成人材は就職業界のニーズを常に意識し対応できるよう努めている。業界のニーズは多種多様であり、学生が求める職種も様々である。その時々のニーズレベルに照らし常に適切なカリキュラムを編成する必要がある。併せて、学生生活・道徳マナー教育も欠かせないし、積極性・協調性・プレゼン能力向上教育は必須である。ガーデンデザイン学科（G科）の授業を担当する教員は業界の第一線で活躍する非常勤講師が主であり、教員の専門性レベルは業界レベルに十分対応できていて、特に実践教育（実習・演習）において顕著である。教授力についても、就職率、資格取得率、進学卒業率、卒業生の活躍等の成果を見れば評価できる。G科においては非常勤講師の果たす役割は非常に大きいと再認識し、協業体制をさらに強化し、社会の評価を得るべく努める。科目間を連携させ、線で結ばれた授業。調査・設計～積算～プレゼン～契約～施工～施工監理～完成～完成後の管理に至る一貫した流れの授業をさらに充実させる。学生には質問や発言を促し、考えさせる授業を目指す。実習、演習、見学を柱とした実践教育の充実と、学科が目標とする資格取得を座学の中心に据える。	<ul style="list-style-type: none">学生個々の資質・個性・長短所・才能を見極め、時には個人授業、チーム授業を交えながら対応する必要性を感じる。 なお学生には素直さを求めたい。在校生と卒業生の交流を深め、教育現場に反映させる（卒業生による在校生指導）。今年度から学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会での意見反映。今年度から教員同士の他者評価や職員による教員評価の実施。

最終更新日付 2014年5月31日 記載責任者 中安 哲男

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか（ガーデンデザイン学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-10-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	業界の実状、動向、人材ニーズを常に把握し、正しく方向付けられるよう努める。	卒業生の情報や業界で活躍する非常勤講師の協力を得て、今業界が求める人材像、専門知識・技術を授業に反映できるよう努めている。	業界の多種多様な人材ニーズに向けての対応。	便覧（学則編）、シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生個々の資質・個性・長短所・才能を見極め、より一層業界の人材ニーズに対応できるよう努めている。	業界の求める人材ニーズは多種多様であり（学生が求める職種も様々であるが）総じては、積極性・協調性・プレゼン能力そして素直さと社会人マナーを具えていることが求められ、これに対応する教育は欠かせない。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	中安 哲男
--------	------------	-------	-------

3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか（ガーデンデザイン学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-11-2 各学科の教育目標、育成人材像を達成する知識、技術、人間性等は、業界が求めるレベルに適合しているか、また、レベルに到達することが可能な修業年限となっているか	国家資格である造園施工監理技士・造園技能士を取得可能とするレベルを定め目標達成に努める。	資格取得には幅広い専門知識が必要となるが授業科目は適切に配置されている。	さらなる知識・技術の習得と共に良識ある建設技術者の育成。	便覧（学則編）、シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
業界が求めるレベルは様々であり、専門知識・技術と共に人間性も求められる。学科として定めた教育到達レベルが 業界が求めるレベルに適合しているか常に情報を把握し反映させると共に、社会人基礎力向上に努めている。	業界で活躍する卒業生の意見を素直に聞き取り反映するよう努めている。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	中安 哲男
--------	------------	-------	-------

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか（ガーデンデザイン学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-12-3 学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	カリキュラムは学科の教育目標・育成人材像の達成に向け、十分な内容でかつ体系的に編成されている。	カリキュラム編成・シラバスを見れば国家資格内容が示す技能や知識要件がバランスよく網羅されている。	現時点では課題を感じない。	学校要覧、便覧（学則編）、シラバス
3-12-4 カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	カリキュラムは常に在校生・卒業生の評価、業界関係者の具体的意見を参考にしながら反映する。	意見反映により講義と実習・演習がバランスよく構成されたものになっている。	定期的な卒業生による業界体験談講義。	学校要覧、便覧（学則編）、シラバス
3-12-5 カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	カリキュラムを編成する体制は明確である。	各教員の意見を反映しつつ科長が編成し、副校長・校長の決裁、職員会議の審議を得て、理事会の承認を得る。	現時点では課題を感じない。	管理運営規定
3-12-6 カリキュラムを定期的に見直しているか	カリキュラムは業界ニーズの変化に伴い定期的に見直しを行う。	平成24年度に大幅なカリキュラムの見直しを図った。	見直し頻度の適正化。卒業生との意見交換。	学校要覧、便覧（学則編）、シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
文部科学省から専門学校に対し「職業実践専門課程」を新たに新設することが発表され、その課程の認定を受けるためには、産学における実践教育が要求されるため、その認定を受けるためカリキュラム改訂のため検討を行った。	卒業生との定期的な意見交換。 学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会での意見反映。

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか（ガーデンデザイン学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-13-7 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	科目は、専門教育（必修・選択）、共通基礎専門（選択）に区分し、総時間数、単位数、受講学年等を示し適正な位置付けを行う。	便覧記載を見れば現状把握できる。	専門教育科目を必修・選択に区分する必要があるかどうか。	便覧（学則編）、シラバス
3-13-8 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	単位、コマ数、授業担当者、教育目標、成績評価法等を示したシラバスを授業基本とする。	便覧記載を見れば現状把握できる。	シラバスと学生の資質との兼ね合い。	便覧（学則編）、シラバス
3-13-9 各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	各科目の1コマの授業について、授業シラバスを完成する。	1コマごとのシラバスが簡単であるが作成されていて、課題テーマ等が示されているが、詳細は科目担当者に委ねている。	授業現場における臨機応変な対応。	シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各科目のカリキュラムの中で適正な位置づけが成されている。 科目担当者間の連携により各科目を繋ぎ一貫した線の授業（相互乗り入れ授業）をさらに推進する。	専門教育科目は全て必修科目とする方向で調整。

3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか（ガーデンデザイン学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-14-10 キャリア教育が行われているか	キャリア教育は必須である。ワークショップⅠ, Ⅱの科目を設けて職業観や、社会人として必要な心構えなどを養う。	産・官・民との連携による学外実習・演習を通じて実施している。 業界人・卒業生による講義を実施している。	社会人基礎力や表現力の取得は、本人に自覚が第一であると思われるが、経済面での問題はあるが、その動機付けの機会をできるだけ多く設けたい。	便覧（学則編）
3-14-11 キャリア教育の実効性は検証されているか	主に、就職活動や就職後の企業からの学外評価をもって検証している。	学外実習や演習においては連携機関の講評を得たり、企業や卒業生へのアンケートを実施するなどの対策をとっている。	積極的に企業実習を取り入れて実効性の検証につなげていく。	アンケート ・企業むけ ・卒業者向け

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
産・官・民との連携実習や演習は、職業実践教育はもとより社会人教育の場としても有意義であり、これの積み重ねによる効果は絶大である。さらに創意工夫を重ねたい。	常に学生に質問や発言を求め、考えさせる授業の実施。 P D C Aサイクルを基本とした授業を実施し、自己点検・自己解決能力を高める教育を実践。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	中安 哲男
--------	------------	-------	-------

3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか（ガーデンデザイン学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-15-12 学生による授業評価を実施しているか	授業アンケート調査を実施し、結果を真摯に受け止め授業に反映させる。	毎年前期後期に各科全科目のアンケート調査を実施し、クラス別教員別に集約し、検証、反省、意見交換を行い次の授業に反映させている。	アンケートに対する真摯な受け止め。	授業アンケート調査報告書
3-15-13 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否について、学科や学校として把握・評価する体制があるか	G科として、担当科目の授業内容等の情報交換により各科目の連携をもたせる。	定期的に情報を持ち寄り、授業内容・教授法について意見交換し授業改善に努めている。	把握・評価体制の確立。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
授業評価の実施・評価体制はある。評価に対する真摯な受け止めと授業への反映努力が一層求められる。 評価改善方法は各教員に任せられているが、学科や学校として評価改善システムの確立に向け取り組んでいる。	保護者アンケートや・企業アンケート・卒業生アンケートの実施の継続と教育への反映。 教員同士の他者評価や職員による教員評価の実施。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	中安 哲男
--------	------------	-------	-------

3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか（ガーデンデザイン学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-16-14 学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	造園、園芸技術者育成に向け授業（実務に精通した）を行うことのできる教員の確保。	確保できている。	教員の高齢化に伴う対応。	
3-16-15 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	業界情報をリアルタイムに把握できる実務派教員の確保。	教員の多数は業界の第一線で活躍し、経験豊富で専門性の鮮度を常に把握し、業界レベルに十分対応できている。	教員の常なる研修	
3-16-16 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	学科長が教員の専門性を把握し評価している。	常日頃の各教員との会話や、実習・演習授業現場の観察、学生による授業評価等により適宣把握できている。	評価の実施状況資料の作成。	
3-16-17 教員の専門性向上させる研修を行っているか	各教員の自主研修に頼るが専門性の鮮度は保たれている。	非常勤講師においては、日々の業界活動が専門性を向上させており、研修に相当すると考えている。	学科・学校としての研修実施の体制。	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-16-18 教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか	学科長が教員の教授力を適宣把握し評価している。	常日頃の各教員との会話や、実習・演習授業現場の観察、学生による授業評価等により適宣把握できている。	評価実施状況資料の作成。	
3-16-19 教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	G科として研修は行っていない。定期的な科会等で教授力の向上対策について意見交換される。	学生による授業アンケート等を基に各教員が自主研修すると共に、教員間で頻繁に意見交換し適切な措置を取っている。	教員間の授業参観。	
3-16-20 教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか	教育面について教員間の協業は欠かせない。	教育面において業務の質・効率の向上のため頻繁に情報交換されている。	他の学科との情報交換による活性化。	
3-16-21 非常勤講師間で適切に協業しているか	常に非常勤講師間で連携し協業に努める。	各講師が担当する科目を連携させることにより、必然的に協業できる。	協業を示す書類の作成。	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-16-22 非常勤講師の採用基準は明確か	採用規定・採用基準は明確にする。	管理運用基準に基づく。	勤務評価のありかた。	管理運用基準

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学科の講師は学生育成目標に向け授業をおこなえる要件を具えている、特にその専門性においては実践教育（現場実習・演習）で顕著である。</p> <p>非常勤講師の評価基準を明確にする必要性を感じる。</p> <p>教員が自主的に研修を行っているがそのための費用の積極的な支援がほしい。</p>	講師のモチベーションを上げる勤務評価が必要。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	中安 哲男
--------	------------	-------	-------

3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか（ガーデンデザイン学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-17-23 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定の基準は明確にする。	単位認定基準や卒業、進級に必要な単位数・時間数は学則（講義要綱）で定められている。	現時点では課題を感じない。	便覧（学則編）、シラバス
3-17-24 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準がある。	単位互換により大学3年次に編入できる制度及び大学・専門学校卒業生が本校に入学した時の単位互換制度がある。	現時点では課題を感じない。	便覧（学則編）、シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価・単位認定の基準は明確に設定されていて、特に問題はない。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	中安 哲男
--------	------------	-------	-------

3-18 資格取得の指導体制はあるか（ガーデンデザイン学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
3-18-25 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	目標とする資格はカリキュラムで明確に定める。	カリキュラムは、学科が目標とする資格に対応できるよう集約されている。	現時点では課題を感じない。	便覧（学則編）、シラバス
3-18-26 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	目標とする資格取得をサポートできる教育指導体制を取る。	目標とする資格取得を集中的にサポートする科目を設置している。	学科において取得目標とする資格以外の資格取得に伴うサポート体制。	シラバス、時間割

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科が目標とする資格取得の指導体制は確立している。	平成26年度から資格取得奨励金制度を発足させるように準備した。目標とする資格を明確にして受験率を高めるとともに合格率をアップさせる。また合格者に対し奨励金を支給する制度である。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	中安 哲男
--------	------------	-------	-------

基準4 教育成果（建築系学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>概ね良好である。</p> <ul style="list-style-type: none">・過去（10年間）の就職率は、90%以上であり、その後の離職率は、一部把握できていないが、企業の聞き取り調査により、かなり少ない。・学科で目標とする資格取得はほぼ達成できている。卒業後、専門職に就きやすい有益な資格・就職活動に有効な資格取得の対策は、授業中で実施できるようにカリキュラムを整備したい。・過去5年間の退学者は約10%で、Open Campus時の模擬授業や個別面談によるミスマッチ対策により、飛躍的に改善されたり、教員間の指導向上により退学者は減少している。・近年卒業生の活躍が、顕著になっている。たとえば一級建築士合格数では全国レベルに達している。卒業生の資格取得数の把握方法を確立し、さらにプレゼン能力に磨きをかけたい。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	増田 和浩
--------	------------	-------	-------

4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか (建築系学科)

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
4-19-1 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	完全な就職率と求人状況の把握を目標とする。	95%を超える就職率である。	積極的な会社訪問、卒業生の紹介並びに担任指導を強化する必要がある。	進路一覧表
4-19-2 就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	定期的な報告と学生・就職科・担任との一体化した情報管理を目指す。	就職成果とその推移に関する情報は、担任と就職担当者との週1回以上の報告、協議により把握している。	地域と就職率の関係を示すデータの作成。	進路一覧表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
過去(10年間)の就職率は、90%以上であり、その後の離職率は、一部把握できていないが、企業の聞き取り調査により、かなり少ない。	

最終更新日付 2014年5月31日 記載責任者 増田 和浩

4-20 資格取得率の向上が図られているか（建築系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
4-20-3 資格取得率の向上が図られているか	各学科で必要な、資格の把握と合格率の向上を目指す。	概ね目標に達している。資格取得は学生個人のスキル向上のみならず、就職活動に有利に作用している。	卒業後の2級建築施工管理技士（実地試験）の受験対策と合否確認方法を作る必要がある。	2級建築施工管理技術検定（学科のみ受験）学校別試験結果名簿
4-20-4 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	卒業生会の協力により過去の資格取得者数や合格率の推移等の情報を明確に把握する必要がある。	先輩たちの資格取得数を公開し受験学生に対する合格向上させる一つの手段となった。	より合格率を高めるため教員間の情報の共有が必要である。	建築系卒業生資格取得一覧表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科で目標とする資格取得はほぼ達成できている。卒業後、専門職に就きやすい有益な資格・就職活動に有効な資格取得の対策は、授業中で実施できるようにカリキュラムを整備したい。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	増田 和浩
--------	------------	-------	-------

4-21 退学率の低減が図られているか（建築系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
4-21-5 退学率の低減が図られているか	教員間の連絡会議で学生管理を実施学校全体の課題として退学率の低減にあたる必要がある。	クラスによりバラツキがあり、担任の指導力等の問題があるが、全体としては、ほぼ目的に近い。	入学前に就学支障がないか何らかの調査が必要である。 指導力に問題がある担任の研修等が必要である。	個人調査票、出欠調査票
4-21-6 入退学者数との推移に関する情報を明確に把握しているか	入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握し、今後の対応を考える。	2週間ごとの教員連絡会等における情報によって対応し、把握している。	退学者の事由と指導記録保存。	年度別進級卒業率データ

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
過去5年間の退学者は約10%で、年々教員間の指導向上により退学者は減少している。	近年の退学者は怠学や、進路変更ではなく経済状態に起因が顕著になった。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	増田 和浩
--------	------------	-------	-------

4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（建築系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
4-22-7 卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握する必要がある。	卒業生が企業での評判がよく、離職者が少ない。また、求人件数は増加している。	より実務に直結した授業を開催する必要がある。	
4-22-8 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	記述できる内容を把握する必要がある。	会社入社後、独立して起業している卒業生が増加した。	卒業生の活躍や在校生へのワークショップへの展開を考える必要がある。	
4-22-9 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	在学中より外部のコンテストに応募するよう考慮する必要がある。	外部コンテストに入賞し評価されている。	授業で、より、プレゼン能力を養う必要がある。	
4-22-10 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか	すべてのコンテストでの評価を把握する必要がある。	民間のコンペで学生部門で入賞を得ている。 大阪建築士会新人賞を受賞している。	授業で、より、プレゼン能力を養う必要がある。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
近年卒業生の活躍が、顕著になっている。たとえば一級建築士合格数では全国レベルに達している。卒業生の資格取得数の把握方法を確立し、さらにプレゼン能力に磨きをかけたい。	

基準4 教育成果（土木系学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>概ね良好である。</p> <ul style="list-style-type: none">AO入試による入学者が増加している。この入学者は、学校推薦や一般入試での入学者より能力的に低い学生もあり、その対応が必要であると思われる。2級土木施工管理技術検定学科試験は、合格者の割合が全国平均より少し高いが、全員合格を目指して更に教授法等について検討中である。退学率はOpen Campus時の模擬授業や個別面談によるミスマッチ対策により、飛躍的に改善されたが、AO入学者の増加に伴い数人おり、さらに的確な指導が必要と思われる。卒業生が社会的に評価されるよう、特にコミュニケーション能力、プレゼン能力向上のため、科目内で創意工夫が必要である。また個々の学生の長所を伸ばす教育が必要かと思われる。	<ul style="list-style-type: none">教員が、学生の就職先へ、求人お礼と次年度の求人願いを兼ね訪問を実施し、企業の要求する人材や業界の生の声を聴き、就職指導に役立てている。土木系1年生を対象に富士教育訓練センターへ5泊6日の行程で、施工実習を中心とした実技教育と集団生活を通じての社会教育を取り入れた。2級土木施工管理技術検定学科試験の対策として、集中講義を実施して対策を行っている。また、測量士補の合格を目指し、補習授業にて対策講座を実施中である。建設エンジニア学科は、カリキュラムの中に安全教育実習と施工管理演習を組込み、在籍2年間に技能講習修了証7件、特別教育終了証3件、他選択で数件、資格が取得できるように配慮されている。クラス担任制を実施し、また、教員間の連絡を密にとり、学生個人について学科全教員が把握して、掌握に努めている。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	堤下 隆司
--------	------------	-------	-------

4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか（土木系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
4-19-1 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	進路決定率100%を目標維持する。	現在、技術者不足から大幅に求人人数が増加している。本校は2年課程であるため、1年次後期からワークショップⅠにおいて企業から技術者、人事担当者等を招き、講演会を実施している。	私費留学生が増えており、卒業後、日本での就職を希望する学生が増えてきており、その対応が必要である。留学生が日本で就職するためには、コミュニケーション能力が問われるため日本語能力を向上させる必要がある。	クラス別進路一覧表
4-19-2 就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	学生個人データの共有化を行い全教職員で対応する。	月別クラス別進路一覧表を作成し、情報を共有しながら指導している。	特になし	月別クラス別進路一覧表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
景気回復により、建設業が活発となり求人人数が急激に増えている。 そのため、学生の進路決定率は100%であるが、この先継続して就職先を確保するために教職員が一丸となって対処していく必要がある。	専門学校卒業者の就職先確保は専門学校の使命である。そのため、早期から就職ガイダンス等を実施し、また就職先への訪問を実施し、企業の要求する人材や業界の生の声を聴き、就職指導に役立てている。

最終更新日付 2014年5月31日 記載責任者 堤下 隆司

4-20 資格取得率の向上が図られているか（土木系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
4-20-3 資格取得率の向上が図られているか	本校の学生には、国家資格、協会資格等の資格取得に関して積極的に1つでも多くの資格を取得できるように指導を行っている。	在学中に取得できる国家資格は、2級土木施工管理技士学科試験と測量士・測量士補の資格のみである。それぞれの試験に合格できるように、集中講義や時間外講習会にて対応している。	合格率を上げるために創意工夫する。 また取得できる資格を模索中。	合格発表一覧
4-20-4 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	各種資格合格者を学期ごとに掌握し、一覧表にて掲示を行なっている。	2級土木施工管理技術検定学科試験の過去5年間は認識している。また、測量士補試験に関しても同様である。	卒業後、実務経験がないと受験することができない1級建築士、各施工管理技士試験合格者追跡調査が必要である。	合格発表一覧

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
2級土木施工管理技術検定学科試験は、合格者の割合が全国平均よりも高い割合であるが、全員合格を目指して更に教授法等について検討中である。 また、平成26年度より、資格取得助成金制度を導入し、合格者表彰を行う予定である。	2級土木施工管理技術検定学科試験の対策は、試験日に合わせて集中講義形式で対策講座を実施している。 また、測量士補試験に関しても同様、科目外であるが集中講義にて対応している。 建設エンジニア学科は、カリキュラムの中に安全教育実習と施工管理演習を組込み、在籍2年間に技能講習修了証7件、特別教育終了証3件、資格が取得できるように配慮されている。

4-21 退学率の低減が図られているか（土木系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
4-21-5 退学率の低減が図られているか	入学者全員を卒業させることを目標としている。	毎月2回教員連絡会で学生動向調査を行っている。 平成25年度の進級率、卒業率とも約95%である。	教職員が学生個人情報を共有し、特に経済的な問題にて退学するケースが多くあるため、事前対処が必要であると思われる。	統計データ表
4-21-6 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	入退学者数とその推移を明確に把握してその情報を共有する。	土木系学科は、中途退学者は2名である。ただAO入学者は自己推薦のため、個人能力までの見極めは難しいが、受け入れた学生を教育して卒業させることが使命なので、学生個人データを明確に把握する必要がある。	教職員が一丸となりその向上に勤める。	年度別進級卒業率データ表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
退学率は改善されている。 教職員一同一丸となって取り組む必要がある。	少人数制クラス編成と担任制を実施し、教員連絡会にて学生動向調査を行い、学生個人の動向を全教員が把握して、指導に当たっている。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	堤下 隆司
--------	------------	-------	-------

4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（土木系学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
4-22-7 卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	本校で受けた教育が、業界においてどの様な評価を得ているか知り、カリキュラムに反映することを目的としている。	就職先の企業訪問を実施し、ヒヤリングの結果、退職者も少なく若手技術者として高い評価を得ている。	社会のニーズに合うカリキュラム・シラバスを作成する。	就職先アンケート結果
4-22-8 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	特になし	企業内表彰を受けた卒業生は多数。	修友会と連携して、卒業生とのネットワークを構築する必要がある。	
4-22-9 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	特になし	特になし	コンテストが殆どなく、発表する機会を作る必要がある。	
4-22-10 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか	特になし	特になし	コンテストが殆どなく、発表する機会を作る必要がある。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生が社会的に評価されるよう、個々の学生の長所を伸ばす教育が必要であると思われる。	

基準4 教育成果（ガーデンデザイン学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>概ね良好である。</p> <ul style="list-style-type: none">・就職に関する目標、資格取得に関する目標は達成できている。・退学率に関する目標もほぼ達成できている。・卒業生・在校生が社会で活躍し評価を得ることは=学校に対する評価である。卒業生については、その後の動向を把握し可能な限りフォローできるよう努めている。在校生については、社会との接触機会・業界との接触機会を設けるよう努めている。・卒業生が母校を顧みたとき、学科を・教員を・教育内容をどのように評価しているか把握し、今後の参考としたい。 ・在校生が卒業後社会で評価されるよう、常に社会の実状を認識させ、できるだけ社会との接触機会を設けることにより、社会の厳しさ「ものづくり」の楽しさを教える必要があると思われる。・専門教育においては、個々の学生の長所を伸ばすことが必要と思われる。	<ul style="list-style-type: none">・企業や各種団体と連携する学外実習は、社会人教育を兼ねた実践教育の場となるので積極的に取り組みたい。・点の授業ではなく、線の授業（各科目を連携させ、調査、デザイン設計、材料、積算、プレゼン、施工計画、施工、施工監理、完成後の管理と一貫性を持った授業）をさらに充実させたい。・卒業生のネットワークを確立し交流を深めることにより、卒業生の在校生指導を期待したい。・離就者・起業者の把握と支援。・課外活動の充実に伴う支援強化。

4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか (ガーデンデザイン学科)

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-19-1 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	進路決定率100%達成を目指す。	学生の資質・個性・才能を見極め、担任と就職担当者とが協業しできる限り学生の希望に沿えるよう努めている。	早期の就活。	進路一覧表
4-19-2 就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	就職成果とその推移に関する情報は全教職員が共有把握し 就職率の向上を図る。	担任と就職担当者との情報交換や学生とのコミュニケーションにより明確に把握している。	リアルタイムな情報交換。	進路一覧表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
過去10年間の就職率は限りなく100%に近い、これを継続すべく全力を注ぎたい。	退学者の就職フォローと、その後の情報収集に努めたい。 離職者・起業者の把握。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	中安 哲男
--------	------------	-------	-------

4-20 資格取得率の向上が図られているか（ガーデンデザイン学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
4-20-3 資格取得率の向上が図られているか	就活に有利となる資格＝専門職に就くために必要な資格取得を目指している 造園施工管理技士の資格は全員受験全員合格を目指す。	過去の造園施工管理技士（2級学科試験）の合格率は全国平均を大幅に上回る。試験対策科目をカリキュラムに組み入れ取得率向上に努めている。	100%合格達成に伴う創意工夫。	合格発表一覧 時間割表
4-20-4 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	過去の資格取得者数とその推移を明確に把握し 情報公開する。	毎年度 資格試験の受験者とその合否結果を把握している。		合格発表一覧

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科で第一目標とする資格の取得に関しては達成できている。他に専門職に就くために有益な資格・就活に有利な資格についての受験フォローワーク体制をさらに強化したい。	卒業生が受験する造園施工管理技士2級実地試験・1級学科実地試験のフォローに努める。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	中安 哲男
--------	------------	-------	-------

4-21 退学率の低減が図られているか（ガーデンデザイン学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
4-21-5 退学率の低減が図られているか	退学率0%を目指すため教員連絡会等に於ける退学兆候者情報交換と対応協議を行う。	教員間で学生の授業態度・出欠状況等、リアルタイムな情報交換と早期対応により退学率の低減に努めている。	教員の指導力UP 入学前の就学資質調査（経済面も含め）	出欠票 個人調査票
4-21-6 入退学者数との推移に関する情報を明確に把握しているか	明確に把握するとともに情報の共有を目指す。	教員連絡会等における情報交換。	退学者の事由と指導記録の保存、活用。	年度別進級卒業率データ票

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
過去5年間の退学率は限りなく0%（就職による退学者を除外すれば）に近いが、教職員が一丸となって個々の学生とのコミュニケーションを心掛け、退学率低減に取り組む必要がある。経済支援対応についても更に充実させる必要がある。	昨今、経済的理由による退学者が増加している、これについては指導に限度がある。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	中安 哲男
--------	------------	-------	-------

4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（ガーデンデザイン学科）

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
4-22-7 卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	卒業生・在校生の活躍・評価は=学校の評価であり、当然のこととして把握に努め その情報を公開する。	卒業生については色々なネットワーク・ブログを通じて情報交換している。	活躍・評価に対する幅広い情報公開。	学科のブログ等
4-22-8 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	卒業生による在校生の指導を充実させる。	卒業生による在校生に対する実習指導・体験談講義・プレゼン演習・マナー教育を実施している。	卒業生と在校生の積極的な交流。	学科のブログ等
4-22-9 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	外部のコンテスト等には積極的な参加を呼び掛けている。評価された作品は速く公開する。	比較的チーム参加が多い。計画とプレゼンと施工が一体となったコンテストを理想としている。	経済面（参加予算の確保）	学科のブログ等
4-22-10 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか	評価作品は速く公開する。	在校生と卒業生合同での作品製作。 プレゼン能力の向上。	経済面（参加予算の確保） 在校生と卒業生の交流場の提供。	学科のブログ等

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生・在校生の社会的活躍・評価は学校に対する評価となる。 専門教育は、個々の学生の資質を見極め長所（才能）を伸ばす教育が必要。 併せて、積極性と協調性を具えたプレゼン能力のある人材を育成するためには、社会と連携した授業が有効と考える。	

基準5 学生支援

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>概ね良好に推移している。</p> <ul style="list-style-type: none">就職・進学指導に関しては、進路担当者と担任が情報の共有をおこない個々の学生のニーズにあわせた指導を心掛けている。また個別相談、履歴書の書き方、面接の受け方を実施しています。学生相談に関する体制については、学生相談室が整備されていて、専用カウンセラーがいる。校医と協力して指導している。 留学生に対しては、有資格者により指導をしていて、入管の評価はAランクである。学生の経済的側面に対する支援については、本校独自の奨学金制度、特待生制度等が一応整備されている。また、校納金納入についても、猶予等の措置を講じている。学生の健康管理については、定期的に法令に基づいて実施している。日常の健康管理については専用の医師、看護師等はないが、緊急な場合は校医に相談し対処している。なお、医務室は持っている。課外活動に対する支援体制については、地域のハザードマップを独自で作成、古民家再生、街並み散策や庭の手入れ、公園の整備など学科の特色を盛り込んだ地域貢献を取組んでいる。学生寮等、学生の生活環境の支援については、学生寮は持っていない。生活環境への支援も特に行なっていない。保護者との連絡は密にして、欠席・遅刻が多い学生には電話・書面で連絡している。卒業生への支援体制は、修友会（本校の同窓会）組織があり、全国に24支部6分会を有し、会員総数は約34,500人以上を有する組織で、毎年修友会総会が5月末実施されている。また、支部総会・分会総会は隨時行なわれて、活発に活動しているが、若い会員の参加促進が課題である。 無料職業紹介所を設置している。	

最終更新日付 2014年5月31日 記載責任者 亀井 哲男

5-23 就職に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
5-23-1 就職相談室の設置など就職支援に関する体制は整備されているか	きめ細かな面接試験対策を行い、学生への不安を取り除き、面接本番で実力を最大限発揮できることを目標とする。	学科別・地域別に整理して閲覧できる体制にしている。 進路相談室（予約制）の開設個別に面接指導（面接対策）を実施。	特にない。	2013年度 求人票
5-23-2 就職に関する説明会を実施しているか	就職に向け目的意識を明確にするため、入学時から段階的に意識の高揚を図っている。 特に企業との連携でワークショップを通じ職業理解をさせている。	1学年 年間3回実施 2学年 年間5回実施 説明会終了後、アンケートを実施し、説明会内容の見直し等、毎年改善を行っている。	変革著しい建設業界の動向、採用状況等を把握しながら、学生が本当に即役立つ説明会とは何かを考えながら実施する。	学生用行事予定表
5-23-3 就職に関する学生個別相談を実施しているか	学生が就職したい求人会社、職種等の確認、就職試験に対する個別サポートを行う。	随時実施している。 求職票提出により、各学生の希望職種等を確認しながら個別相談を行っている。	就職質問用紙（メール等でも可）を利用できる等サービスの向上が必要。	進路希望調査表
5-23-4 就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか	統一したマニアルを基に、具体的な指導を実施。 1年次の就職説明会で履歴書の書き方、添削指導をしている	履歴書の作成方法・会社訪問の仕方・面接指導・筆記試験問題集等を多用してきめ細かな指導を実施。	特にない。	就職活動ガイドブック 講義要綱

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
安定した就職企業の確保と企業が求める、人間性豊な人材育成ならびに即戦力に対応した資格取得を目指した進路指導教育に取り組んでいます。	面接対策と共に筆記試験対策もすべきである。 また卒業後の離職率を低くする対策も就職サポートとインターンシップ制度等同様に考えていかねばならない課題である。

5-24 学生相談に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
5-24-5 学生相談室の設置など学生相談に関する体制は整備されているか	学生の悩みや相談事に気楽に応じられる体制は必要である。	専用の相談室を設け、専任の担当者が対応している。	専任の担当者と担任および科目担当者の協力が必要である。	学生相談室の定期報告
5-24-6 学生からの相談に応じる専任カウンセラーがいるか	多様な相談事に的確に応じられる有資格の専任カウンセラーによる相談体制の確立。	専任カウンセラーには、必要な研修を修めさせ、有資格者による体制にできた。	時代に応じた対応を行っていく。	学生相談室の定期報告
5-24-7 留学生に対する学生相談体制は整備されているか	入学から卒業まで一貫した相談体制の確立。	20名程度の留学生に対し対応する体制を敷いている。 担当者は有資格者である。	特に問題はない。	留学生担当者報告

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
専用カウンセラーは有資格となり学生相談室は一層整備された。留学生に対しては、有資格者により指導をしていて、入管の評価はAランクである。	

5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
5-25-8 奨学金制度は整備されているか	本校独自の経済支援制度を拡充し、「創立100周年記念奨学基金」を創設し修学資金に困っている学生を支援している。	本校独自の奨学金及び特待生制度がある。	希望者に全額分の支援ができるないが、半額また1/4支援にし、ほぼ全員に支援するようにしている。 また保護者の所得制限を設けている。 本校独自奨学金の他に学費ローン等の案内もしている。	創立100周年記念奨学基金制度 学費ローン案内
5-25-9 学費の分納制度はあるか	学費負担者の状況にあわせて、学業が継続できるようする。	1年間の納入金を1回納入、2回納入、4回納入と選択できる。それでも納入できない場合は、月別納入も可能である。	特にない。	学校案内

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生の経済支援は、本校独自の奨学金制度、特待生制度等が一応整備されている。また、校納金納入についても、猶予等の措置を講じている。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	亀井 哲男
--------	------------	-------	-------

5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
5-26-10 定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	健全な学園生活がおくれるよう定期的な健康診断の実施。	定期的に健康診断を実施している。 健康診断の結果は、全学生に報告している。	特にない。	行事予定表
5-26-11 学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	24時間の体制で学生が相談できる校医がいる。	専任の医師・看護師はないが、千船病院と校医契約をし、救急対応や保健指導を受けられるようにしている。	特にない。	校医契約書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生の健康管理については、定期的に法令に基づいて実施している。日常の健康管理については専用の医師、看護師等はないが、緊急な場合は校医に相談し対処している。なお、医務室は持っている。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	亀井 哲男
--------	------------	-------	-------

5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
5-27-12 スポーツ等のクラブ活動、その他、課外活動に対する支援体制は整備されているか	地域に貢献できる取組み 社会奉仕活動の一環	庭の手入れ、公園の緑化、古民家再生、街並み見学会等を実施している。	一部、企業とのタイアップ、等で支援しているが、今後もさらに充実させたい。 土砂災害等の被災地でのボランティア活動に取り組めていない。	学校案内

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
クラブ活動の時間を確保が困難であるが、学科間の交流を促進するため、教職員が一体となって取り組んでいる。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	亀井 哲男
--------	------------	-------	-------

5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
5-28-13 遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	学校附近にあるアパート、マンションの紹介。	入学前にアパート、マンションを紹介している。またマンション内でのトラブルが発生した際にも対応できるよう家主、管理人等と連絡できようサポートしている。	特にない	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生寮はないが、比較的安価なアパート、マンションを紹介している。また近隣等のトラブルが発生しないように家主、管理人等と密に連携できようとしている。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	亀井 哲男
--------	------------	-------	-------

5-29 保護者と適切に連携しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
5-29-14 保護者と適切に連携しているか	年1回の後援会総会（保護者会）を実施。終了後、個人面談を行っている。 出欠・成績に関しては適宜保護者に連絡している。	学業成績、出欠状況を定期的に報告している。 学校通信文等の発送している。 本校ホームページ上にブログを設置し、日々の学習状況などを提供している。	保護者アンケートをおこない保護者のニーズにあわせた情報を提供できるようにしたい。	修成だより 後援会総会資料 前期末結果のお知らせ 年度末結果のお知らせ

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
保護者との連絡は密にして、特に欠席や遅刻が多い学生には電話で連絡している。また家庭訪問を行なったケースもあった。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	亀井 哲男
--------	------------	-------	-------

5-30 卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
5-30-15 同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	卒業者名簿の発行と改訂 会報の発行 年1回の総会の開催 地方分会の拡大と充実 講習会の開催	学校内に同窓会事務所があり専任の担当者を有し、活発な活動を行なっている。	若い卒業生を参加させるための方策を模索している。	便覧（学則編）
5-30-16 卒業生をフォローアップする体制が整備されているか	既卒者用の求人票の公開	本校の無料職業紹介所で、フォローする体制が整備されていて、有効に機能している。	必要に応じて、対処している。	管理運営規定

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
修友会（本校の同窓会）は全国に24支部6分会を有し、会員総数は約34,500人を有する組織で、毎年修友会総会が5月末実施されている。また、支部総会・分会総会は隨時行なわれて、活発に活動しているが、若い会員の参加促進が課題である。 無料職業紹介所を設置している。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	亀井 哲男
--------	------------	-------	-------

基準 6 教育環境

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none">施設設備については、教育上支障のないように整備されている。緊急時のメンテナンスが課題である。インターンシップについては、外部の関係機関と連絡を密にして、契約等の書類も整備されている。学外実習は、提出書類を整備する必要がある。防災に対する体制は整備されている。火災と地震の避難経路は各教室に表示されている。毎年火災と地震の防災訓練を実施し、消防署、設備関係者に来校してもらい、避難の心構え等コメントをもらっている。	本校のある地域は、海拔 0 メートル地帯であり、南海トラフ巨大地震では 5 メートルの高さまで水没する恐れがあり、1 号棟は、免震構造物であり、3 階以上は安全と考えられる。しかし 1, 2 階にも重要な機器備品もあるので浸水に対する早急な対策が必要である。

最終更新日付	2014 年 5 月 31 日	記載責任者	亀井 哲男
--------	-----------------	-------	-------

6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
6-31-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	十分とはいえないが、必要最低限は整備している。	パソコン室の更新をおこなった。 作品展示室、個別面談室等の整備を行っている。	教育内容の充実を図る場合、施設設備を一部更新する必要がある。	学校案内
6-31-2 施設・設備のメンテナンス体制が整備されているか	定期的に点検と見直しを行っている。	最低限のメンテナンス体制は整備されている。	定期点検の実施と、日々の巡回の継続。 老朽化対策を含めた校舎の整備が今後の課題である。	管理運営規定
6-31-3 施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	長期計画は立ててないが、必要に応じて更新している。	管理運営規定	中長期の計画を立てる必要がある。予算の確保。	管理運営規定

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
施設設備については、教育上支障のないように整備されている。緊急時のメンテナンスが課題である。	

最終更新日付 2014年5月31日 記載責任者 亀井 哲男

6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
6-32-4 学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	インターンシップを推進することで技術の習得および卒業後の離職率を下げる。	本校求人票のインターンシップ欄を活用している。とくに学生が独自に決められるようにしている。	海外研修は伝染病感染やテロの危険性があり、行っていないが、一部学生からの要望もあり、これからも実施を模索していく。	
6-32-5 学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	企業実習報告書の提出 訓練日報の提出 実習成果報告の提出	学外実習、インターンシップは報告書により教育効果を確認している		各種報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
インターンシップについては、外部の関係機関と連絡を密にして、契約等の書類も整備されている。	

最終更新日付 2014年5月31日 記載責任者 亀井 哲男

6-33 防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
6-33-6 防災に対する体制は整備されているか	災害対策要綱の整備 危機管理マニュアルの作成	災害対策要綱の整備や危機管理マニュアルの見直しを随時行っている。 西淀川区から津波一時避難ビルの指定を受けた。	津波災害時の一時避難ビルに指定されたが、食料や飲料水等の備蓄が急がれる。	災害対策要綱 避難訓練実施要綱 危機管理マニュアル
6-33-7 災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	災害対策要綱の徹底 危機管理マニュアルの徹底	耐火建築物であり、火気を使用する実習を行っていないが、マニュアルをもとに担任から学生に伝えている。		災害対策要綱 避難訓練実施要綱 危機管理マニュアル
6-33-8 実習時等の事故防止の体制は十分か	災害対策要綱の徹底 危機管理マニュアルの徹底	仮設材の組み立て・解体等の実習の場合は、ヘルメット安全靴の着用をさせるとともに、担当教員が細心の注意を払って対応している。		災害対策要綱 危機管理マニュアル
6-33-9 万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	火災保険、施設賠償保険の加入	ほぼ納得のいく内容で加入している。	一定時期に内容の見直しが必要である。	保険の証書

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
6-33-10 防災訓練を実施しているか	地震による避難訓練 火災による避難訓練と消防訓練	6月に地震、11月に火災を想定した避難訓練を実施している。 火災については消防署と連携している。		災害対策要綱 避難訓練実施要綱 危機管理マニュアル

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
防災に対する体制は整備されている。火災と地震の避難経路は各教室に表示されている。毎年火災と地震の防災訓練を実施し、消防署、設備関係者に来校してもらい、避難の心構え等コメントをもらっている。	本校のある地域は、海拔0メートル地帯であり、南海トラフ巨大地震では5メートルの高さまで水没する恐れがあり、早急な対応が必要である。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	亀井 哲男
--------	------------	-------	-------

基準 7 学生の募集と受け入れ

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>募集広報は昨年度を踏襲し、直接的な接触型のものと間接的な非接触型を連動させ実施した。特に接触型募集広報に注力した。</p> <p>今年度の学生募集活動は、昨年を上回る入学者の増加を実現できた。また、学生の受け入れ体制に関しては、志望者からの相談、問い合わせに対する担当者の対応を改善した。次年度も継続する。</p> <p>今年度の結果に甘んじることなく、接触型と非接触型の募集広報をそれぞれ実施する時期、内容をその時の状況に合わせ変更、追加して実行する。また、オープンキャンパス等に対応する担当者の更なるスキルアップの実施と内容の精査を図る。</p> <p>特に非接触型募集広報の対費用効果と検証を鑑み、実施の効率化を図ることは次年度も継続して行う。</p>	<p>接触型募集広報</p> <ul style="list-style-type: none">・高校訪問・高校方式説明会・会場方式説明会・体験入学等のオープンキャンパス <p>非接触型募集広報</p> <ul style="list-style-type: none">・進学雑誌・進学系ネット媒体・交通広告、看板・学校案内書（WEB・ブログ含）・DM（追伸）

最終更新日付 2014年5月31日 記載責任者 藤本 喜代志

7-34 学生募集活動は、適正に行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
7-34-1 学生募集活動は、適正に行われているか	目標値を毎月に設定し、募集活動を行った。	毎月に数値を管理し、取り組んだ結果合格点といえる募集活動は実施できた。	数値の落ち込む時期があることから、内容検討と時期を考えた適正な実施を図る。	広報マイルストーン
7-34-2 学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか	昨年度と同じく案内書は雑誌風、カリキュラム、入学金や手続等は別冊とした。	志望者、保護者それぞれが必要とする情報が分かり易くなっているので変更はしなかった。	さらに分かり易い学校案内書を検討する。	
7-34-3 志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	担当者の教育を行い対応する方針を取った。	統一した回答が出来るようになり担当者毎のバラつきが改善された。	完全な体制となるよう、更なる教育、改善を行う。	
7-34-4 募集定員を満たす募集活動となっているか	入学目標値を設定して募集活動を行った。	直接的な広報（オープンキャンパス等）に注力し、目標値を大幅に超えた。	オープンキャンパス等、直に志望者、保護者と話ができる広報の強化をさらに推進する。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
社会情勢を鑑みた適正な学生募集活動とその内容、実施時期の検討を行い、更なる対応者の教育と意思統一の徹底を図る。	

7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
7-35-5 学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか	直接・間接的広報で公表する。	学校案内書、ホームページ、ブログで公表ならびに、オープンキャンパス、高校・会場説明会で伝えた。	タイムリーな情報はホームページ、ブログですぐ公表する。	学校案内書等 進路&データ集
7-35-6 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか	オープンキャンパス等で卒業生の講演を実施し、業界での活躍等を認識していただく。	講演を実施したオープンキャンパスからの入学者等数値で判断した。	更に正確な判断材料としてアンケートを取る等の取り組みを実施する。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
情報の開示を今後も積極的に行い、貢献度を測る調査を実施する。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	藤本 喜代志
--------	------------	-------	--------

7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
7-36-7 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	適性かつ公平に行うよう担当者の教育を徹底している。	入学選考において、これといった問題の発生はなかった。	現段階ではないと考える。	
7-36-8 入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	データ化し常に変化を查察している。	データを活用し学科ごとの推移は把握できていた。	現段階ではないと考える。	平成25年度出願台帳 平成25年度出願データ

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
現状に甘んじることなく研鑽することが重要である。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	藤本 喜代志
--------	------------	-------	--------

7-37 学納金は妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
7-37-9 学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか	学納金は妥当なものと認識しているが世情の変化を認識し、検討の必要性の有無を常に考えている。	昨年度と同様、経済的な支援の利用者は多くなっている。	引き続き減免措置等多くの方が利用できる経済支援の制度を広報する。	
7-37-10 入学辞退者に対する授業料等の返還について適正に処理されているか	決められた諸規則の通り処理をする。	学校案内書等の記載で分かりづらいところがあったようで問い合わせがあった事例がある。	学校案内書等の記載を改善する。	
7-37-11 学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	経理からの情報をストックしている。	データとして保存している。	現段階では特にない。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
昨年度と同様に広報として学納金の妥当性や金額の決定に対して積極的には意見していない。 ただ、募集活動から得られた意見は積極的に進言する必要があると考える。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	藤本 喜代志
--------	------------	-------	--------

基準8 財務

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>継続的な教育の遂行には確固とした財務基盤の確立が必須の条件である。そのためには「入るを量りて出づる制す」を大原則とし、学生の増強活動に全力を尽くすと同時に細かく経費の削減に努めている。</p> <p>本校では退職金の分割支払いが枷となっている部分が否めなかつたが、2月末にこの清算が終わり財務基盤の安定性が見えてきた。</p> <p>収支予算は確実かつ実行可能な計画の立案を旨としている。それにより、執行はひずみなく推移している。</p> <p>会計監査は適正に行っている。 財務情報の公開は、私立学校法に則り公開している。</p>	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	三枝 省三
--------	------------	-------	-------

8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
8-38-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	一応、安定しているといえる。	学生増強と経費削減の両建てで対処している。 退職金の清算が急がれた。	学生数の増強と安定化が課題である。	
8-38-2 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	把握している。	公認会計士から定期的に報告を受けている。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務基盤は安定しているといえるが、先の見通しの昏い中、強固で適正な財務基盤の構築にはいましばらく時間が必要である。財務基盤の安定化には、学生数の増強で収入を図る一方、経費削減で支出を抑えることでしか方策はない。	退職金の支払い清算を2月末に完了した。

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	三枝 省三
--------	------------	-------	-------

8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
8-39-3 年度予算、中期 計画は、目的・目標に 照らして、有効かつ妥 当なものとなっている か	妥当なものになっている。 本校では確実かつ実行可能 な収支計画の立案を方針とし ている。			
8-39-4 予算は計画に従 って妥当に執行されて いるか	妥当に執行している。		広報関係支出等、全体に経費 削減をさらに検討する必要性 はある。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
予算の計画と執行はおおむね妥当なものとなっている。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	三枝 省三
--------	------------	-------	-------

8-40 財務について会計監査が適正に行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
8-40-5 財務について会計監査が適正におこなわれているか	適正に行っている。	公認会計士による外部監査と、学園監事による監査を行っている。		
8-40-6 会計監査を受けける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	妥当である。	公認会計士が期中と期末の監査をおこない、さらに学園監事2名が決算監査をおこない、理事会・評議員会において監査報告をしている。		監査報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
会計監査は適正におこなわれている。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	三枝 省三
--------	------------	-------	-------

8-41 財務情報公開の体制整備はできているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
8-41-7 私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	財務は公開している。	財務状況閲覧規則により公開している。		財務状況閲覧規則
8-41-8 私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	形式は整えている。	財務情報は閲覧に供し、また本校の HP にて公開している。		HP の写し

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務情報の公開は、財務状況閲覧規則に則り閲覧に供し、また、HP にて公開している。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	三枝 省三
--------	------------	-------	-------

基準9 法令等の遵守

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令や専修学校設置基準等の遵守は、学校運営の基本であると認識し、それに則り適正に運営している。</p> <p>個人情報の保護には細心の注意を払っており、問題とするところはないと考えている。</p> <p>自己点検・評価の実施に向かって、研修会に参加し科課長会指導のもと本校独自の報告書作成を模索してきたが不十分なところがあり、平成22年度から「第三者評価基準」に準拠し実施して行くこととし、当面は準会員として自己点検自己評価委員会を設置して進めている。</p> <p>現状の自己点検評価の結果を希望者に本校において閲覧してもらうところから、平成24年度からもっと多くの方々に閲覧していただく手段としてホームページを活用している。</p>	<p>本年度から「学校関係者委員会」を設置し、問題点の提起をしていただき、問題点の改善に努めている。</p>

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	三枝 省三
--------	------------	-------	-------

9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
9-42-1 法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか	法令を順守することが大原則と考えている。	法令や専修学校設置基準等を満たし、また適正な運営をしている。		便覧（学則編）
9-42-2 法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか		実施している。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法令や専修学校設置基準等を遵守することが大原則であり、それに則り適正に運営している。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	三枝 省三
--------	------------	-------	-------

9-43 個人情報に關し、その保護のための対策がとられているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
9-43-3 志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に關し、その保護のための対策がとられているか	個人情報の保護には細心の注意を払う。	個人情報保護規則を厳正に執行し、保護を徹底している。 志願者の個人情報は用済み後、裁断して破棄している。		個人情報保護規則
9-43-4 個人情報に關して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	個人情報保護の必要性を認識させる。	個人情報保護規則を全教職員に配布し、啓発に努めている。		個人情報保護規則

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報の保護には万全を期している。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	三枝 省三
--------	------------	-------	-------

9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
9-44-5 自己点検・自己評価を定期的に実施し、問題点の改善に努めているか	平成 21 年度までは本校独自の評価システムで行っていたが、不十分なところがあり、平成 22 年度から第三者評価の基準に沿って実施した。	本年度立ち上げた学校関係者評価委員会に「自己点検・評価報告書」をもとに意見をいただいた。	今回の報告書を基準に組織的にかつ定期的に実施していく必要がある。	自己点検・自己評価報告書 学校関係者評価委員会規程
9-44-6 自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	自己点検・評価委員会を設置し、定期的に会議を行い確立する。	平成 23 年度の「自己点検・評価報告書」を作成する過程で確立した。	内部監査組織として意義ある組織に育てる。	自己点検・評価委員会組織図
9-44-7 自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	関係者全員に正確に伝える。	科長会を始め教職員連絡会において方針を周知する。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己点検・評価の実施に向かって、研修会に参加し科課長会指導のもと本校独自の報告書作成を模索してきたが不十分なところがあり、平成 22 年度から「第三者評価基準」に準拠し実施していくこととし、当面は準会員として進めていくこととした。	本年度から「学校関係者委員会」を設置し、問題点の提起をしていただき、問題点の改善に努めている。

最終更新日付	2014 年 5 月 31 日	記載責任者	三枝 省三
--------	-----------------	-------	-------

9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
9-45-8 自己点検・自己評価結果を公開しているか	速やかに結果の公開を進める。	現状の結果を希望者に本校において閲覧してもらうところから、もっと多くの方々に公開する方法を探る。	ホームページを中心に結果を公開する。	自己点検・自己評価報告書
9-45-9 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	結果の公開を確立する。	今年度もホームページにおいて公開している。		自己点検・自己評価報告書
9-45-10 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	結果の公開の方針を全教職員に周知する。	ホームページに公開していることは教職員連絡会において周知している。		自己点検・自己評価報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
現状の結果を希望者に本校において閲覧してもらうところから、もっと多くの方々に公開する方法をしてホームページを活用する。	

基準 10 社会貢献

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、建設に関する専科の専門学校です。特に建設業は、「人々が生活するうえで困っていることを助ける仕事」です。社会に出てから貢献に寄与するのではなく、学校生活からその精神等を育む必要があると考えている。</p> <p>本校は、国家資格取得等を目指す学科が多く、定められた教育課程(カリキュラム)との関係で時間的な制約はあるが、地域や関連業界との連携は不可欠であると認識しており、教育資源を生かした社会貢献に今後も積極的に取り組んでいきたい。</p> <p>また、関西圏の学学連携、产学連携、そして卒学連携、地域住民や自治体との連携や海外との連携などを強化して行く予定である。</p> <p>ボランティア活動に関しては、学校教育に支障のない範囲で、学生の積極性や自発性など社会性を育む上でボランティア活動は、有意義であると認識し、その推進を図るため「ボランティア規定」を整備して、学校の責務とリスク対応などを検討しておく必要がある。</p> <p>今後は、学校教育との両立を図りながら、ボランティア活動の範囲を広げるなど、学生のボランティア活動を支援するための検討を行っていく予定である。</p>	<p>ガツンプロジェクトを立ち上げ学生の知識見聞を広げ、地域社会と連携した社会貢献を目指している。下記の4クラブが色々な特色を持ちながら活動中である。</p> <ul style="list-style-type: none">・建築アカデミー・町家探偵団・測量クラブ・ガーデニングクラブ

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	堤下 隆司
--------	------------	-------	-------

10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
10-46-1 広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか	定められた教育課程(カリキュラム)との関係で時間的な制約はあるが、地域や関連業界との連携をとり教育資源を生かした社会貢献に積極的に取り組むことを目標とする。	小中高校への出前授業を行ったり、企業や卒業生を呼んで在校生との交流会を実施している。また、产学協同で商品開発の企画参加等を実施している。	各団体との連携協力を図ることにより教育改革の恒常的な方途が構築できる。	
10-46-2 学校の資源を活用し、生涯学習事業や雇用促進への支援を行っているか	社会人のスキルアップの一環として生涯学習事業や求職者支援の講座を開講する。	大阪府、大阪ガス、西淀川区役所からの受託事業を開講して活用を図っている。	少子高齢化に伴い生涯学習事業の必要性は年々高まつてくるため、常に時代が要求する内容に対応できる体制を構築する。	
10-46-3 学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか	自治体や地域と連携し、社会に開かれた専門教育の場にする地域連携センターの開設を目指す。	各種検定試験会場に開放したり、地元イベントに開放している。	地元に根付いた学校を目指して連携を図っていく。	
10-46-4 諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っているか	アジア地域をはじめ、世界各国の留学生を積極的に受け入れ優秀な建設技術者を輩出するグローバルな専門学校を目指す。	大專各の留学生委員会と連携し取り組みを行っている。またベトナムのドンズー日本語学校から留学生の積極的な受け入れを行っている。	日本語専門学校との提携はもとより、海外の専門学校との交換留学協定など積極的に検討して行く必要がある。	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
10-46-5 重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓蒙活動を行っているか	建設業において、環境問題は必須である。日頃から、諸問題に対応できる人材養成に心がけている。	ポイ捨て・喫煙マナーなど身近な生活習慣の改善から環境問題などに対する意識付けを行なっている。またいじめなどの問題にも積極的に取組んでいる。	CO2,ヒートアイランド現象など環境問題は建設産業においても一大問題であり、本校の教育課程でも重要な課題である。	修成危機管理マニュアル
10-46-6 学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	環境問題のうち、身近な問題から解決出来るように教職員、学生が協力して取り組む体制にする。	省エネ対策として、電気使用の集中管理やを中心に照明・空調の管理やクールビズやウォームビズの徹底を実施している。	今後、省エネ対策として屋上緑化や壁面緑化等の普及運動への取り組みを行っていく。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は、国家資格取得を目指す学科が多く、定められた教育課程(カリキュラム)との関係で時間的な制約はあるが、地域や関連業界との連携をとり教育資源を生かした社会貢献に今後も積極的に取り組んでいきたい。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	堤下 隆司
--------	------------	-------	-------

10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参考資料等
10-47-7 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	学校教育に支障ない範囲で、学生の積極性や自発性を育むために有意義であると考えており、学校もその活動に対し奨励、支援を行うことを目的と位置づけている。	全学生が一斉に行う清掃活動の取り組みやクラブ活動や個人単位のボランティア活動に対しても積極的に奨励している。	「ボランティア規定」を整備し、学校の責務とリスク対応などを検討する必要がある。	
10-47-8 学生のボランティア活動の状況を把握しているか	ボランティア活動への学生参加は、届出により承認を行っている。	全学生が対象の場合は、掌握出来ているが、個人によるボランティア活動に関しては、届出により状況把握を行っている。	「ボランティア規定」の整備。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校教育に支障のない範囲で、学生の積極性や自発性など社会性を育む上でボランティア活動は、有意義であると認識している。「ボランティア規定」を整備して、学校教育との両立を図りながら、ボランティア活動の範囲を広げるなど、学生のボランティア活動を支援するための検討を行っていきたい。	

最終更新日付	2014年5月31日	記載責任者	堤下 隆司
--------	------------	-------	-------